

社会を明るくする運動

「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」

長野県作文コンテスト表彰式

問 住民福祉課 社会福祉係 ☎62-9144

町内の小中学校から出品された172点のうち、県入選が2名、町長賞を7名、教育長賞を4名の方が受賞しました。

教育長賞				町長賞				県入選						
犯罪のない明るい社会へ	「社会を明るくする運動」	事故を減らすために	「身近な働く人へありがとう」	社会を明るくするために	社会を明るく	笑顔あふれる社会に	守れば楽しいネットワーク	少しの幸せ	「ありがとうでつくる社会」	動物の涙	「社会を明るくする作文」 (健康について)	思いやりの一つの大きな輪	本郷小学校6年	小池 麻歩
富士見中学校2年	富士見中学校1年	境小学校6年	富士見小学校6年	富士見中学校2年	本郷小学校6年	富士見小学校6年	境小学校6年	富士見中学校2年	富士見中学校1年	境小学校6年	本郷小学校6年	本郷小学校6年	小池 麻歩	
小林 綾乃	蔵田 みゆ	吉岡 萌々夏	西本 葵	馬場 竜之介	植松 隼	金澤 愛	加藤 結	室橋 芙海	五味 愛凜	小林 美森	五味 大陸	本郷小学校6年	小池 麻歩	

◎受賞作文から2点を紹介します。

「思いやりの一つの大きな輪」

本郷小学校6年 小池 麻歩

バスや電車に乗っていたとする。自分はいすに座っていたとして、お年寄りや小さな子どもが立って乗っていたら、自分で気づけるだろうか。気づけたら、30点だ。気づかないとすべてが始まらない。次に、声をかけてあげられたら、60点だ。勇気を出して、「大丈夫ですか」と一声かける事で、声をかけてもらった人は、「あっ心配してくれた」と思いうれしくなるだろう。静かな場所だったら私はすごくいいにくい。でもよく考えると、静かだからこそ、その一声を聞いていた人たちは「あの子すごいな。自分も言ってみよう」と思ってしまう。もし、もう一言かけるとしたら、続けて、「この席使ってください」と言えたら100点満点だ。もし「大丈夫です」などと返されても落ちこむ必要はない。その二声で、100点満点なのだ。ゆずってもらった人も、立っているのはづらかったかもしれない。でも、うれしくなって、つらい気持ちは消えると思う。急にそんな事をやろうとしても、ぜったいに無理だ。だからまずは、周りを見てみて困っている人を探してみればいい。表情などから気づけたらまずはそれで100点だと思う。そこからどんどん少しずつでも進歩していけばいい。小さな出来事でも、私はきつとその一声の思いやりが自分に返ってくると思

っている。

私は、友達と、カギ製のロッカー付きのプールに行った。プールで遊んだ後ロッカーを開け着がえていると、ロッカーを開けられずに困っている女の子を見つけた。やってあげたいと思っ

てもなかなか声をかけてあげられない。私はすごくきんちようしていた。でも女の子の方が困っているなと思った。色々考えていると、女の子から、「カギ開けてください」と言われた。すごいプレッシャーだったと思うがすごいなと思った。私は、カギを開けてあげた後、モヤモヤしていた気持ちが消えてうれしくなった。女の子も、きんちようした気持ちから、パッと明るくなったと思う。私もその勇気を見習ってさらに、思いやりたり、助けてもらったり、思ってもらい、助けてもらおうと思った。知らない人に声をかけるのは、だれだって難しい事だと思う。だけれど少しずつの小さな経験の積みかさねで少しずつ簡単な事にならなっていくと思う。

コミュニケーションを積みかさねる事で知らない人でも、思いやり、助け合いしていけると思った。転校生や、あまりしゃべった事のない友達、色々な人とたくさんしゃべっておけばきつと、だれとでもたくさん関わり合えて、思いやり、助けやりできると思った。思いやりももらった人は他の人に思いやりやっていく。それが大きな思いやり、助けやりの輪ができると思う。

「社会を明るくする作文」 (健康について)

本郷小学校 6年 五味 大陸

ぼくのおじいさんは、八年前から、呼吸の力が弱くなってしまいました。なので、今は酸素ボンベを使って生活をしています。

夏休みに、おじいさんの病院へついでいく機会がありました。

病院は、諏訪にある赤十字病院です。病院までは、遠くにおじいさんが自分の車を運転して行くことができないので、お父さんの運転で一緒に行きました。

おじいさんの使っている酸素ボンベのカートは約5キロもあって、とても重たいです。車に乗る時や、おりる時に、ぼくは、そのカートを持ってあげました。

また、病院の中でも移動をするときには、ぼくがカートを持ってあげました。

一緒に歩く時は、速く歩くのではなくて、おじいさんの歩くペースに合わせてカートを引っぱりながら歩いてあげました。

それは、ぼくの歩く足の速さだと、おじいさんにとっては速くて息が切れてしまうからです。おじいさんは、「ハアハア」としてとても苦しくなっています。

ぼくが、おじいさんの酸素ボンベを持ってあげたら、おじいさんはとても楽しそうでした。おじいさんは、安心してぼくの肩に手をかけて一緒に歩いてくれました。

ぼくは、おじいさんの酸素ボンベを

持ってあげて、「よかったなあ」と思いました。

病院の中では、お年よりの人たちがたくさんいました。そして、つえをついて歩いている人もいました。病院の職員の方に付きそわれて、エレベーターにのる人もいました。色々な人たちがいました。また、病院の受け付けをしている職員の人たちは、病院での手続きがわかるように、とてもいいねいに説明をしている姿が見られました。看護師さんたちは、おじいさんを呼ぶ時や案内をしてくれる時など、「ゆっくりでいいですよ」と、やさしく一言声をかけてくれました。

今日、おじいさんと一緒に病院へ行ってきて、病院の様子が少し見れてよかったです。

ぼくは、これからもおじいさんだけではなくて、他のまわりの人たちの手助けができることが一つでもあれば、やっていきたいなと思いました。



中学校橋を車両通行止めにしします

問 建設課 建設係 ☎62-9224

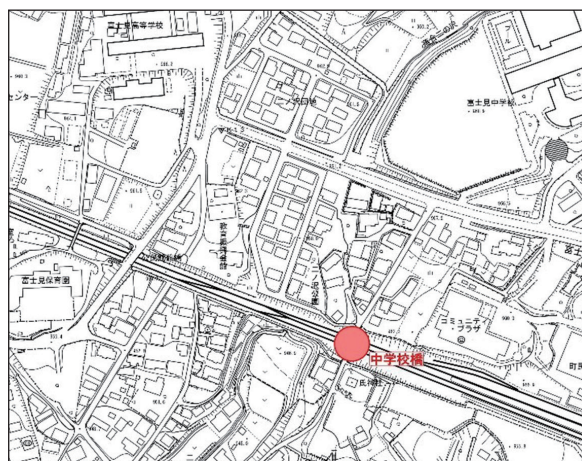
近年、国により構造物の法定点検が義務化されたため、町でも橋梁等の点検を順次進めています。この法定点検により中学校橋（富士見区JR跨線橋）を点検したところ、傷みが著しく老朽化が進んでいることから、早急に対策を取る必要があるとの結果が出ました。

更なる劣化を防ぎ、事故防止や橋の長寿命化を図るため、当面の間中学校橋を車両通行止めとします。ご不便やご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

【期 間】 令和2年4月1日(水)～当面の間

【制 限】 重量500kg以上の車両の通行止め

※歩行者、自転車やバイク等の2輪車は通行可能です



▲中学校橋 位置図